

まんさく

第264号

発行
特別養護老人ホーム光寿苑
まんさく編集委員会
和賀郡西和賀町湯本30-76-1
TEL 0197-84-2526
koujhu@fancy.ocn.ne.jp
題字 元理事長 太田 祖 電



3月が来ると被災地県では、特別な感情が沸き起こってきます…

《令和3年3月18日》

光寿苑夜間防災訓練

あの日から学んだ防災意識で臨む

3・11から10年のこの日、光寿苑のお年寄り職員と一緒に
お参りへ2ヶ所に分かれてし
し、14時必分には国の儀式の放
送を全館に流しながら合わせて
黙とう。それぞれの想いを捧げ
る特別な時間となりました。
3月18日には夜間防災訓練を
実施。お年寄り職員のみでの
訓練でしたが、こいんまりし
た分、集中して訓練に臨めた様
子でした。今後はさらに、3・
11の実状から生まれた訓練内容
も参考に研さんしたい考えです。

《令和3年3月11日》

3・11から10年：
共に黙とうを捧げて

お年寄り職員と一緒に参り

光寿会基本理念

『生きる意味』を発見し合える道場にしよう

- (1) 寝たきりに近い状態で、一生を苑生活で閉じようとしている方が多いわけで、その方々との共同生活の中で、寝たきりであっても「生きる意味」に何の遜色も無いことを発見すべきである。それは、「職員からお年寄りへの愛」というだけの人間関係ではなく、お年寄りから職員への心づかい、愛などによって、初めて福祉職員として働いていられることを忘れないことである。
- (2) お世話する者とされる者という関係ではなく、むしろお年寄りに何かを学ぶという職員、そういう関係でありたい。

*** 光寿会職員心得…2021 ***

精神面 『こちらが笑えば あちらも笑う』

相手が笑顔で挨拶をしてくれないとしたら、貴方はどんな事を想うでしょうか。いい気分ではないかも知れませんね。そんな時こそ、どんな行動をとるかによって自身の真価が問われる事でしょう。笑顔で挨拶してくれないのは何故だろう？体調が悪いのかな？何か悩んでいるのかな？はたまた、私自身が声を掛けづらい空気を創ってはいなかったでしょうか？…そのように捉え、自分から快い笑顔の挨拶をして参りましょう。

① 自分がされて嫌なことはしません、させません。

自分が『不快に思う事、嫌がる事』を相手にしない！という意識で再度見直しましょう。その上で、その人にとって嫌な事は何なのか、本音を言えているだろうか等、しっかり検証しましょう。

② 誰がいてもいなくても、裏表のない言葉づかいをします。

裏表のない言葉は、相手を敬う心であると同時に自分自身を尊ぶ心です。相手の人生を想像し敬う言葉掛けはいずれ自分に返ってきます。「自利利他」の精神でお互いが導びあう言葉を使いましょう。

③ その人の大切なもの・場所、こだわりを最期まで大切にします。

人により、大切なことや場所は違います。美空ひばりさんの歌は素晴らしいですが、全員が好きとは限りません。その人にとっての特別なことをきちっと把握するために聞き取りを大事にしましょう。

④ お年寄りの“想いに寄り添う”事が私たちの仕事です。

私たちの役目は、お年寄りの傍で過ごし、より想いを拝聴し受けとめていく事です。お年寄りの想いを形にするために、多職種が連携して知恵を絞って射的を射たケアを創造して参りましょう。

⑤ 3.11から10年…『心の防災とリスク管理』の意識を深めていきます。

『心の防災』は、普段の私たちに起こる「慢心・先入観・偏見」の心を指します。“これぐらい大丈夫”、“きっとこの人はこうだ”という無意識の思い込みを点検し、防災とリスク管理に努めましょう。

～以上、あたり前でありながら最も大切な当心得を皆で護っていきましょう～

2021 年 4 月 1 日

令和 3 年度 『光寿会事業計画』

① 光寿苑短期入居事業休止 → 個別のケアを再構築します！

短期入居事業休止の一方で、個別ケア再構築のために人員が3ユニットに集結したと捉えたい。また、ひなたぼっこ直近3年間の実績に合せた登録定員18名に変更。出向職員を定着化し、法人全職員でチームとなりたい。

【事業を縮小する事により関わりを深められる効果】

② 夜勤2名体制開始に伴い介護の質向上を目指します！

前述のように短期入居事業を休止とし、夜勤対応職員数及び日中の介護職員数の確保を図る措置をとった。これに連動し、日々の個浴ケア等の技術伝道や再検証、職員研鑽のための苑内研修の充実等、介護の質の向上を図る。

【定員縮小の事業転換期は介護の質の向上を図る効果】

③ 明日の担い手に出遇える場づくりをします！

人材確保の一環として昨年度より町と町内事業所の協働で始まった小中学校での『介護の魅力化事業』。実話を基にした寸劇や介護のプラス志向の3Kを通じ、児童・生徒が介護に良いイメージを持ってもらえる様に臨む。

【介護の楽しさ・豊かさを働く私たちが発信し深める効果】

④ コロナ対策尽力の一方でお年寄りの心と命を護ります！

未曾有の世情で感染症対策に万全を期す一方で、お年寄りの暮らしのストレスをいかに緩和できるかが課題。感染対策をとった上での行事企画や大切なご家族との面会や外出実現に向けて思考と実践を諦めず試みたい。

【安全な環境確保と豊かな暮らしが共存できる効果】

⑤ 3.11 から 10 年…心と体制双方の『防災』に取り組めます！

『職員心得』でも触れているように、慢心や偏見を見直す「心の防災」意識をまず持ちたい。その上で防災訓練のあり方も、負傷者や行方不明者等を想定するより緊迫感を持った内容に挑戦しながら全体の防災意識を高めたい。

【リアルな訓練実施の中で個々の防災意識向上を図る効果】

※以上5点を継続して実施しながら、一步一步進んで参ります。

心から愛した子孫から愛され見守られて…



小田島タコさん【94歳】

口数の少ない方でしたが、顔見知りの方には話してくれて、また、キレイな言葉で話されるタコさんでしたので、西和賀の方ではない様でした(笑)。娘さんが毎日の様に面会下さり、最期には多くの子・孫に囲まれて、嬉しかったのではないかと思います。

《担当、刈田典子》

『今生より
往く』

令和3年度 所信表明式

今年もコロナ対策のため、短時間で距離を取っての所信表明式となりました。光寿苑58名、ひなたぼっこ11名でスタート致します。地域の皆様、宜しくお願い申し上げます。



“こちらが笑えば あちらも笑う.. 心で

職員募集!

☆お年寄りの“命に寄り添う仕事..です☆

- ① 調理職員
〔お年寄りの食を支えます〕
- ② 介護員
〔お年寄りの暮らしを支えます〕
- ③ 看護師
〔お年寄りの健康を守ります〕



想... 災害を捉える 東日本大震災10年スペシャル②

『3.11から10年...』心の復興』と『心の防災』 太田宣承

3.11から丸10年。私、太田も当時を振り返り、被災地となった場所を走り、そして被災された方々と語って参りました。感じた事をつらつらと綴らせて頂きたい...

3.11から10年...『心の復興』と『心の防災』

3・11から10年を迎える数週間程前から、時間を見つけては幾度と沿岸部を訪れていた。キレイに整備された町並みや穏やかな青い海が見える。そこで暮らす人たちの声や表情も和やかに感じた。でも、当時の記憶と共に言われようのない感情も沸き起こってくる。感情の正体を見つげようと思われこれ考えながら海辺で車を走らせては停めて、その場所を感じ得るものはないか探した。いや、明確なものはないまま時が過ぎた。岩手・宮城・福島の人たちと連絡を取り、現況やあの頃と今の心の変化等、様々な話を伺う貴重な時間も賜った。少し、私なりに掴めてきた頃、3・11から10年の目を迎えていた。

国は向こう10年のスローガンの一つにマ心の復興△を掲げた。とてもありがたい言葉の響きではあるが、果たして心の復興とはどういう状態を指すのだろうか？容易な事では全くなく、デリケートな事も含むため、一概に語る事はできない。その中でも愚案を巡らせ

てみる。世の中の見方や環境・状態という点について考察してみたところ、心の復興とは以下の状態無くして成し得ないのでは...というところに現時点で行き着いた。

①偏見のない関係を生きる

具体的に言えば、例えば福島産の果物が売っている。貴方は自然に買いますか？買うとすれば、そこにどんな心情が起っていますか。被災地支援として...そんな心情が存在していませんか？...こんな風にも尋ねてみたくなる。事実、私の中にも〃応援したいから...〃という心が存在する。決して悪い心ではない。だが、〃被災地だから〃という枠組みに捕われた心とも言えるのではないか。

これから先、本音の恚味での心の復興が成就するとすれば、支援のための心情を超えて、〃福島の結果物は美味しいから買っちゃうよね〃と自然に思えるところに起こるのではないだろうか。人間の中にある外集団同質性バイアスから、私という個人が解放された時、真の心の復興へと繋がると思う。



『奇跡の一本松』の周囲は、10年経った今でも工事が続いている...

太田宣承

②真の防災はマ心の防災△から10年を探索していくうち、マ心の防災△の言葉が頭に浮んできた。心の防災とは、〃これくらいは大丈夫だろう〃とか〃前も問題なかったから今回も...〃というような慢心や思い込みを持たない事を指す。慢心は被害拡大に繋がる種。想定以上の事が発生したらどうするか...？その様な心構えで臨めば、新たな知恵も生まれ、また防災訓練の中身も深まる事だろう。そして有事に実になる！...そう思う。

3・11から10年...ここからマ心の復興・心の防災△が始まる。

今月の登録者の方々
16 名様です♪



感染症対策も春よ来い♪…「ひなたぼっこの日常」



外での活動が中々ままなら
ないですが、今日という日
を大事に過ごしています♪

第6回『運営推進会議』(3月30日)

※外部委員9名・職員5名出席

職1 ひなたぼっこの登録定員を現在の25名から18名に下げざる措置を令和3年4月より実施。これは直近3年間の平均登録数を元に判断したもので、対する職員の配置人数も下がります。

季1 利用者の状況で、例えば介護度2の人等は認知症状の具合によっては数字以上に手が掛かる事もあると思ふが、その点等も検証した上での配置人数の下降修正を行うものなのか、**職1** あくまでも登録定員に対する最低配置人数の修正であり、利用人数の多い曜日には配置も多めにする等、実際は状況に応じ

委2 外部評価について、運営推進委員は事業所の防災訓練に参加しているが、今年度は参加していかないで、**職1** その認識で良い？
委3 私はこの設問自体、参加の有無について具体的にマいつつ、等明記されておらず、委員に就任して以降参加していた(数年前)事で判断し、できていない”にした。

委女 この外部評価の設問自体に毎年具体性がないため解答も具体性に欠けると思う。来年度は検討が必要。

おかげさまでした

寄贈

- ★ 藤原 輝夫 様 [若 畑]
- ★ 匿 名 様 [西和賀町]
- ☆ 高橋 達子 様 [大 野]
- ☆ 平藤 壽子 様 [左 草]
- ☆ 菅原 康悦 様 [滝沢市]
- ☆ 小松 陽子 様 [秋田県]
- ☆ 高 田 牧 美 様 [秋田県]

寄附

- ★ 高橋 祐子 様 [湯 本]
- ★ 高階 長一郎 様 [横手市]
- ★ 佐々木 静夫 様 [左 草]

訪問

運営推進会議 (3/30)
☆ 外部運営推進委員 様 … 9名

大寿会へのご支援

『共生の場』へようこそ♪

【光寿苑の新しいお仲間をご紹介します】



高橋 吉夫 さん

*西和賀町

*大正のお生まれ



石川 タカ さん

*西和賀町

*大正のお生まれ



平澤 キワ さん

*西和賀町

*昭和のお生まれ

第89回

第89回目も引き続き、家族会事務局長の藤原輝夫氏より一筆頂戴致しました。今回は最終稿となります。…(淋)



事務局長
藤原輝夫氏

そうした事から、会議あるいは行事への参加等させて頂く機会を得て、職員の皆様や家族会役員の皆様にも折に触れ一緒にさせて頂く中で、皆様の心温まる真剣な態度にいつも感心させられておりました。

私と光寿苑との関わりは、平成28年12月に、亡き祖電さんが理事長の崩壊に「理事に欠員が出たので就任して欲しい」との声が掛かったことから始まる。「何も分らない私でも良かったら」と務めさせて頂き、その後の平成29年4月からは評議員として務めさせて頂いております。

母、トシ子のこと⑤

元気です！家族会♪

家族会の皆様にしても、入居されていたご家族がとうにおおくなりになられていても、準会員という立場で長く会の活動に熱心に取り組み居る居る会員の方が多く居る事に驚き感心してきました。きっと、入居されていたご家族に良くして頂いた苑に対する感謝の気持ちやそうさせているのだと思っております。私も母がお世話になってからは、一層感謝がいっぱいの日々です。ありがとうございました。

【全5回⑤】





イラスト：1000

入浴は多くの人にとっての安らぎの時間に成り得るものであり、よりリラックスできる時であろう。特にも個浴だからこそ生まれる微笑ましい場面！さらにキレイな歌声や周囲の喜びにも広がる相乗効果♪おかげさまですね♡

寿庵もまた、 自分の人格の尊厳を失うことをしない

《片岡弥吉》

第264号 丸田善明

自然法爾 [じねんほうに]

江戸時代初めの頃の話。
キリシタン・後藤寿庵は、伊達政宗に取り立てられ、現奥州市福原の領主となり、耕地の改良など善政を敷いたといわれています。

この頃、幕府はキリシタン禁止政策を採り、弾圧を強めていました。初めの頃、キリシタンに融和的だった政宗も幕府に抗しきれず弾圧に転じ、多くの信者を処刑します。寿庵の人柄を惜しんだ政宗は、寿庵に、信仰を棄てて生きよと諭します。しかし、寿庵はそれを拒否し、手掛けてきた用水路(寿庵堰)の完成を見ずに、南部藩の岩崎村に逃避潜伏

である寺田弥吉は、冒頭の言葉で語っています。人格とは「主体性」のこと。宗教の「宗」に通じます。

私たちは様々な都合(事情)を抱えて社会を生きていきますが、往々にして力のある者によってねじ曲げられたり、それに迎合して生きることを選んでしまったりします。だけど、人間には譲れないものがあるんですね。寿庵は命掛けてそれを生きたのでしょね。

すゝめです。元和9年(1693年)のことだと書かれています。

この時の寿庵の心境を、日本キリシタン殉教史の著者

おわりに

ここ数ヶ月、3・11やコロナ世情を思案する中で、外集団同質性バイアスという言葉に随分触れてきた。意味は、「自分が所属していない外の集団に対して、自分が所属する内集団よりも偏見や思い込み、レッテル等を貼って単純に均質な認識をしてしまう現象」とある。私たちは普段から無意識に先入観等の色メガネで世間のことを勝手に評価し、時に悪く言ったり聞いたりして、他人も少なくないのではなからうか。

外集団均質性バイアスの自分から解放される糸口は、相手を「よく知る」事。知るは人間理解の基。

※バイアス = 偏りを生じさせるもの、それはたつき

人間理解は相手と自分自身へ！